

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870201252
法人名	NPO法人 ケア・サポート
事業所名	シーサイド
所在地	愛媛県今治市吉海町臥間46-2
自己評価作成日	平成26年1月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

人と人との関わりであることを常に思い、大切にしており、日々スタッフ間で、切磋琢磨しながら質の向上に努めている。また、地域に根付けよう努力し、利用者と共に、島四国お接待行事や、札所清掃では、地域の人々の声から、利用者の地域での役割、生きがい作りとなっているため、感謝の心で続けさせて頂くようにする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

近頃の礼所へは、毎日のように散歩を兼ねてお参りに出かけておられ、掃除等もされている。お参りに来られた近所の方とは顔なじみになっており、挨拶を交わしたり、掃除のお礼を言うてくださることもある。毎年事業所で行う夏祭りは、地域の恒例行事となり、参加人数が増えている。七夕には、保育園の子ども達が来てくれて、一緒にゲームしたり、歌を歌い、普段はみられないような利用者の笑顔が見られるようだ。

利用者の中には、普段の関わりの中で、ご自分やご家族のことをあまり話さない方もあり、施設長からのアドバイスで、入浴時のリラックスしている時にゆっくりとお話しをお聞きすることに取組まれ、お話を聞けるようになったようなケースがある。

利用者のお誕生日には、希望をお聞きして、「外出したい」「お酒が飲みたい」等の希望に沿えるよう支援されている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

シーサイド

(ユニット名)

げんき

記入者(管理者)

氏名

中河内 志保

評価完了日

平成26年1月28日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 基本理念をフロアに掲示し、皆が見えるようにすることで、職員の意識統一ができるようにしている。月一回の全体ミーティング時には全員で復唱している。 (外部評価) 法人全体の基本理念のほかに、ケア理念を「ふつうのことをふつうに」と決めておられ、居間に掲示されている。又、「笑顔」「元気」という各ユニットの理念は、利用者の手形や笑顔の写真とともに掲示されていた。毎週、施設長が、「今週の心がけ」を決めておられ、調査訪問時には、「物への態度を見直しましょう」と掲示されていた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 行事の際には、地域の婦人会、学生ボランティアへ参加の呼びかけを行っている。また、利用者と一緒に買い物に行ったときや、散歩の時など、近所の方、お店の方との会話を楽しまれている。 (外部評価) 近くの札所へは、毎日のように散歩を兼ねてお参りに出かけておられ、掃除等もされている。お参りに来られた近所の方とは顔なじみになっており、挨拶を交わしたり、掃除のお礼を言うてくださることもある。毎年事業所で行う夏祭りは、地域の恒例行事となり、参加人数が増えている。七夕には、保育園の子ども達が来てくれて、一緒にゲームしたり、歌を歌い、普段はみられないような利用者の笑顔が見られるようだ。	管理者は、「地域の保育園や小・中学校の子ども達ともっと交流を深め、利用者を楽しんでもらえる機会を増やしていきたい。」と考えておられた。又、近所の方達についても、事業所の特性や有用性等を知ってもらい、交流する機会作りに工夫されてみてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 毎月定期的に施設の隣にある札所に、利用者と職員で協力し、清掃をさせて頂いている。また、毎年島四国の縁日の時にも、利用者と職員とで協力し、遠方からの参拝者へお接待し、島の行事を受け継がせて頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 二か月に一回開催し、家族・民生委員・市の職員などから、活発な意見を頂き、サービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 会議は、併設の小規模多機能事業所と合同で、2か月に1回開催されている。会議時には、住民代表が持参された介護に関する新聞記事を話題に話し合うようなこともある。住民代表者は「自分が利用したいと思えるような事業所になってほしい」と言う思いで意見を言ってくださっている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 支所の推進会議のメンバー、市役所高齢介護課、地域包括センターの協力も得ながら、よりよい介護ができるよう、努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時には、地域包括支援センターの担当者の方が、センターの役割について、パンフレットを持参して説明してくださったり、市役所支所の方からは、「老人クラブによる慰問」の受け入れについて提案があった。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員同士、日々利用者の安全について考え、拘束しないケアについて話し合い、確認し合っている。また、ミーティング等で意見を出し合う機会を持ち、職員間での意識の統一に努めている。</p> <p>(外部評価) 事業所は建物の2・3階に位置し、エレベーターで昇降するようになっている。エレベーターは鍵をかけて職員が管理している。外に行きたい利用者には、職員と一緒に出かけおられ、近くの札所まで散歩して手を合わすことで気分が落ち着くような方もいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設の研修会にて勉強会を行っている。また、勉強会だけでなく、日々の申し送りや、ミーティングでも、職員間で話し合い、声をかけあい、意識統一できるよう、努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 受付にて、成年後見人制度、福祉サービス利用援助事業等のパンフレットを常備しており、必要に応じ、利用できるようにしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に、本人・家族とよく話し合い、不安なこと、気になること等を聞きとり、重要事項説明書などでも、十分に説明し、納得頂けるように努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 受付に意見箱を設置し、契約時には苦情処理、重要事項を明確に説明し、意見のある時には解決に向けての話し合いをしている。面会時にも職員から家族に積極的に話しかけている。また、家族会・運営推進会議の内容・行事ごとなども詳しく報告している。 (外部評価) 運営推進会議時、ご家族から「着ている服が汚れているし、破れていた」「顔を洗っていないみたいで口元に何か付いていた」等の意見があったことを機に、他利用者の衣服も合わせてチェックする機会にされた。管理者は、職員に、「自分の親ならどうするか、という視点で考えてほしい」と指導された。毎月発行する職員手書きのシーサイド新聞を見てご家族からは、「編集後記のコメントを読むのが楽しみです」と感想をいただいたこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			定期的にミーティングを行い、積極的に意見を出して検討し、実施している。また、日々の会話や申し送りの時にも気づいたことを話し合うようにしている。	
			(外部評価)	
			料理の得意な職員のアイデアで、利用者と一緒に畑で採れたさつまいもを使ってお焼きを作ったり、バラ寿司が好きな利用者のお誕生日には、牛乳パックを利用して、ひし形の押しずしを作ってお祝いをされた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			個々の職員と話し、意見を聴く機会を設けている。外部研修の案内も伝達し、受講を勧めている。また、受講した内容は、全体ミーティングで発表・報告している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			ミーティング時に、施設内研修を行い、個々の職員のスキルアップに努めている。外部研修の内容は、申し送りやミーティングの時にも、他の職員に伝達し、現場研修でも個別に指導し、お互い成長し合えるよう取り組んでいる。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			法人内の事業所間での合同ミーティングを開催し、困難事例等について意見を交換している。夏祭り際には、事業者間協力し、お互いの行事に取り組んでいる。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所時、利用者・家族を交え話をし、情報収集し、本人や家族の希望や不安を伺いながらどうすればいいか考え、ケアに活かせるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時、利用者・家族を交えて話し合い、情報収集し、家族からの意向や不安に思われている事等、職員間で話し合い、共有し、利用者に安心して生活して頂けるように、本人の意見を大切にしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者、家族を交えて意向を伺い、適宜状態に応じたサービスが行えるよう、日々観察を行い、より良い介護が行えるよう努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 介護する側される側ではなく、もし自分だったら、自分の家族だったという思いで関わらせていただくように努めている。昔ながらの行事や季節の行事、料理を作るときなどは、利用者の皆さんに教えて頂きながら、一緒に生活を送れるように努めている。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 定期的に園内の新聞を送る際にも日々の状況を報告している。また、随時連絡を取り、本人・家族の意見を尊重し、利用者にとって一番いい介護ができるように検討している。夏祭り・クリスマス・家族会等の行事を家族と一緒に。利用者や家族、スタッフとの関係をより良いものにしようと努めている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の希望により、外出レク、買い物レク、また、施設の近隣への散歩、定期的な札所の掃除などを通じて近所の方との触れ合いが持てる様、支援している。また、電話をかけたリ、馴染みの美容室に行くなどして、知人との関係が途切れないよう努めている。 (外部評価) 以前に住んでいた「家に帰りたい」と希望され、娘さんと帰られた方は、事業所に戻って来られて「段差があり、家ではあんまり動けなかった」と感想を話されたようだ。自宅の「近所に行ってみよう」と希望され出かけた方は、「子どもをおんぶしてこの道をよく通った」等と話され、懐かしがられたようだ。利用者のお誕生日には、希望をお聞きして、「外出したい」「お酒が飲みたい」等の希望に沿えるよう支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者が孤立しないよう、職員が間に入り、声かけや話題を見つけ、話しやすいように支援している。また、レクリエーションや利用者と共に散歩をする等、楽しく生活できるよう、努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院等で、医療的管理が必要となり、やむなく退所された場合でも、お見舞いに行くなどして、利用者・家族との交流を持ち、相談に乗らせて頂いている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者とは日々会話をし、本人の意向を伺い、より良いケアを行えるよう、カンファレンス、ミーティングで話し合い、検討している。言葉で表現できにくい本人の思いも、仕草や表情等から気づくよう努めている。 (外部評価) 利用者の中には、普段の関わりの中で、ご自分やご家族のことをあまり話さない方もあり、施設長からのアドバイスで、入浴時のリラックスしている時にゆっくりとお話しをお聞きすることに取り組み、お話を聞けるようになったようなケースがある。管理者は、利用者の言葉や気になったこと、職員の気付き等は、経過記録に記入するよう職員に伝えておられるが、実践につながり難いようだ。	今後さらに、個々の情報収集に取り組み、利用者からの情報をもとにして、利用者一人ひとりの笑顔や元気につながるよう支援に工夫されてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時には、本人家族から面接時に情報収集している。また、入所してからの日々の生活での会話からもアセスメントしている。また、家族の面会時など、話を伺い、新たな情報収集に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員は定期的なバイタル測定だけでなく、日々の利用者の様子を観察し、健康状態の確認につなげている。申し送りでも、利用者の日々の様子の変化を把握するようしている。また、日々の過ごし方を把握し、職員が利用者の中に入った、話をする中で、心理状態も把握するよう、努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者、家族の意向を尊重しつつ、日々様子を観察して職員間で申し送り、ミーティング等話し合いをして、利用者個人個人に合ったプランを、作成している。また、カンファレンス時、家族に参加頂き、話しやすい雰囲気作りに努め、利用者の新たな情報が得られたり、意向の把握につなげている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、3か月毎に職員全員でモニタリングを行い、6か月毎の見直しにつなげておられる。介護計画は、ご本人とご家族の希望をお聞きしながら、利用者が興味を持って行えることを採り入れるようにされている。「事業所で安心して生活できるようにしてほしい。」というご家族からの要望や、「いつまでも元気に暮らしたい」というご本人の希望に沿って、筋力維持のため、ラジオ体操や散歩、新聞とり(新聞を毎日読むのが日課)を支援している事例があった。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の状態を関わった職員が記録に残すようにし、本人の訴えや様子を申し送り、話し合い、日々のケアについて考えるよう努めている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人・家族の希望で、外出・外泊されている。その際には、日々の様子から注意することを家族に伝え、外出・外泊時の様子を家族から聞き、ケアに繋がれることは積極的に、取り組んでいる。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>定期的な民生委員の訪問、ボランティアの受け入れ、地域の老人会への参加、中学生の職場体験、実習受け入れ、消防訓練による地域消防署・消防団との連携など、積極的な地域との関わりを持てるようにしている。また、移動販売のパン屋さんが来て、自分でパンを購入したり、買い物レクで、地元で買い物に出かけている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) ひと月に一回は職員が同行し、協力病院へ定期受診している。医師・看護師からの意見を家族に伝え、日々のケアでも気をつけている。また、希望により、他の病受診も行えるよう、支援している。</p> <p>(外部評価) 利用開始時に、利用者やご家族には、協力医への移行をお願いしており、協力医での定期受診は、職員が送迎・同行して支援されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 日々の状態観察や、バイタルチェックを行ない、状態に変化がある場合には、早急に報告し、協力病院を受診している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 協力病院と連携をとることはもちろん、他の病院に入院していた際にも連絡を取り合うことで、利用者が安心して治療に専念できるよう、努めている。情報交換することで、退院した後も、利用者が安心して生活して頂ける様、努めている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) かかりつけ医と連絡を取り合い、気軽に相談できる関係作りに努めている。ターミナル期などが考えられる場合には、家族に意向確認し、職員間でも話し合い、統一したケアを行えるよう、努めている。</p> <p>(外部評価) 「最後までここで見て欲しい」「いつまで、どの程度まで見てくれるのか」とご家族から聞かれることもあり、事業所からは、できることを伝えたり、ご家族に協力をお願いする等されている。事業所には「看取りに関する指針」「介護職員より看護師へ連絡する事項」「不在時の連絡方法」等のマニュアルを作成し、利用者のご家族の変化に合わせて対応することに努めておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時のマニュアルを作っているおり、どう対応すればよいかわかるようにしている。また、すぐに医療機関と連権が取れるような体制を取っている。職員間でも、日々話し合い、早期発見に努め、リスク軽減に努めている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練や火災訓練を行い、職員は災害時にどう対応すべきか学んでいる。定期的な訓練の時だけでなく、地域消防署と連携を図ると共に、地域の消防団にも協力頂いて、訓練を行っている。 (外部評価) 3月の夜間想定のみ消火避難訓練時には、利用者役になった職員をシーツに包んで避難させたり、外階段を使って避難させる訓練が行われた。体験した職員は「声かけがないと不安」ということが分かったようだ。消防署員からは「煙にまかれぬように早く他の階に逃げること。」「初期消火が大切なので消火器の使い方をきちんと覚えて欲しい」とアドバイスがあり、職員は水消火器を使っての消火訓練も体験された。お米や水、缶詰等の備蓄も増やし、現在は、5日～6日分を備蓄されている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々の会話や、申し送りの時、また、全体ミーティングでも、利用者の尊厳・プライバシーを損ねることがない様、言葉使いにも気を付けている。また、個人情報の取扱いにも気を付け、記録時にも注意を払っている。 (外部評価) 利用者同士の相性もあり、トラブルになりそうな場面もあるが、皆でゲームをしたり、職員がゆっくり関わるようにして、家族のような雰囲気作りに努めておられる。この1年間事業所では、「職員教育」に力を入れて取り組んで来られ、利用者との関わり方等について勉強された。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ケアする際には、利用者と話しながら、想いを引き出せるよう、努めている。また、仕草や表情、様子を見て理解するようにも努めている。利用者にできることは手伝って頂き、ご指導いただき、協力して生活して頂ける様にしている。利用者と話合い、何がしたいか、何が出来るかを日々考えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事、入浴時間等、可能な限り本人の希望を聴き、入浴日 も、その日の体調に合わせて共に、負担のかからないよう 特浴を使用して支援している。食事の主食は本人の希望 で、軟飯やおかゆにしている。また夜間も休むことができな い利用者は、他の利用者に考慮したうえで、居室やフロアで 過ごして頂いている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 洋服を本人と一緒に選び、着脱や整髪など必要時に、お手 伝いをしている。個別で希望すれば、ネイルケアや化粧品も実 施している。理美容は本人希望で、選択できるようにしてい る。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の利用者にあった食事形態を工夫し、職員とできる範囲で準 備や後片づけている。季節を感じるおやつ作りをしたり、定期的に 利用者ともに考えておやつレクをしている。また、職員と一緒に食 事をとることで、日々の食事のことを利用者話し合い、世間話、会 話、意見を引き出せている。日々食事については検討しているが、 家族会でも施設の食事をしていただきながら意見を頂いている。 (外部評価) 厨房から食材が届き、ユニットごとに調理したり、厨房で調理された 食事が届くようになっていた。調査訪問時は、焼きそばができるに おいがユニットに広がっていた。食事中は集中できるようにテレビを 消して、職員は介助したり、全体が見える位置に立って必要に応じ て対応をされていた。食事を残す利用者に、職員は、「もう少し頑 張って食べましょうか」と声をかけておられた。利用者には、ごはん の固さや味付け、香辛料等の辛さ等についても希望を聞き取って おられる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 食事ごとに摂取量、水分量をその都度記入し、詳細もカルテ に記載している。また、利用者個々に応じ、摂取量が少ない 場合には、好きな食べ物を食べて頂いたり、飲み物の種類 を変えたり、水分の多い果物を取って頂いている。日に一度 体重を図り、増減や日々の様子も注意している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 個人で歯ブラシ、はみがき粉を用意し、声かけを行って口腔 ケアを行っている。必要に応じ、見守りや介助を行っている。 また、自分で行えなかったり、うがいのできない利用者は職員 がガーゼで拭いたりして、口腔状態の観察を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を使い、利用者個々の排泄パターンを掴み、できるだけトイレでの排泄を心がけている。訴えのできない方にも行動や、様子を見て、定期的に声かけし、誘導を行っているチェック表の活用や、申し送りにより、職員全員が把握し、注意できるようにしている。トイレも大きな張り紙で、利用者にはわかりやすいよう、表示している。 (外部評価) 夜間にオムツを使用する方もあるが、昼間はトイレで排泄できるように支援されている。車いす対応のトイレには、可動式の手すりが付いており、利用者の持っている力を使って排泄できるような支援に努めておられる。手すりの位置等、利用者の使い勝手の良いトイレを使用できるように誘導されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事以外にも水分補給をこまめに行っている。レクや散歩などで、運動を行うことにより、便秘予防に努めている。食事・おやつの内容にも工夫している。毎食汁物を付けることによって、水分を多く摂っていただけるよう努めている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の日々の状態や本人の希望を確認し、入浴できるようにしている。また、入浴は個別浴よし、本人の好みの入浴剤を入れて、気分転換を図ったり、個別にて会話することにより、コミュニケーションを深め、関わりを大切にしている。 (外部評価) 入浴は基本的に2日に1回となっているが、希望があれば毎日入浴できるようになっている。入浴に気分が乗らない方には「ちょっと歩いてみましょうか」と風呂場近くまで一緒に歩き、お誘いすると入浴につながるようなこともある。入浴剤を使って「今日は〇〇の湯ですよ」と声をかけると、長湯して楽しめる方もいるようだ。浴槽の縁の高さに合わせた木製の回転台を置き、ご自分で浴槽に入れるよう工夫されている。買い物に出かけた時に、好きなシャンプーを買う方もおられる。同性介助を希望する方にも沿っておられる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中散歩や、レクリエーション等で活動量を増やして、できるだけ夜間眠れるように努めている。夜間眠れない利用者には、話をしたり、フロアでテレビを見て頂いたり、飲み物を摂って頂く等して気持ちを落ち着かせて眠れるよう支援している。また、日中体調に応じ休んで頂く時間も作っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬情報を個人ファイルにはさみ、職員がいつでも調べられるようにしている。必要に応じて看護師に聞いたり、自分で調べ、学び、情報交換している。症状に変化があれば、協力病院に指示を仰ぎ、薬等の変更があれば申し送りなどで把握する。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者のできる範囲で食器・お盆拭き、洗濯物干し、洗濯もの畳み等できることを手伝って頂き、役割を持って頂けるように関わっている。札所清掃や、昔ながらの行事(餅つき等)、季節の行事(おはぎ作りなど)にも利用者から教わりながら、手伝って頂いている。新聞を読むのが日課の方には、個別で自分の好きな新聞を購入して頂いている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の状態、希望に応じて体調を見ながら散歩・外出を行っている。札所掃除や外出レク等で地域の方と、交流を深め、花見・外食レクなど、外へ出る行事の際には家族にも参加頂いている。 (外部評価) 近くの道の駅の水槽にいるコブダイ等、めずらしい魚を見に行かれたり、桜や梅、藤の花見に出かける際には、ご家族も一緒に楽しめるよう声かけされている。初詣は、全員が参拝し、利用者の中には、「初詣に行った事がない」という方もおられ、喜ばれたようだ。利用者の希望で回転寿司で外食した際には、「外で食べたらいい」と喜ばれたようだ。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 大部分の利用者は事務所で小遣い程度預かり、散歩・買い物レク等で必要に応じ、本人がお金を持ち、支払できるように支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば、電話できるようになっている。レクで作った絵葉書等に手紙を書き、暑中見舞いや年賀状などもだしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 換気システムを導入しているが、定期的に窓を開けて、換気も行っている。異食に注意しながらも季節のものや、花を飾ったり、イラストカレンダーを貼ったり、壁画を貼ったるなどして季節感を味わって頂く雰囲気作りを心がけている。テレビの音量・照明の明るさ、温度にも気をつけている。	
			(外部評価) 入口のプランターには葉ボタンが植えられ、玄関には梅やみかんの枝を活けておられた。ユニットの壁面には貼り絵や折り紙で作った鬼や、利用者がお好きな色で塗ったぬり絵が掲示されてあった。畑でさつまいもや玉ねぎ、ねぎ等を作っており、利用者が水やり等をされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアのテーブル椅子だけでなく、窓側にソファを設け、外を眺めたり、少人数で会話できるよう配慮している。レクをする時は、皆で楽しめるよう配置を考えている。	
			(外部評価)	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の好きな者や、入所前に使用していた物を持ってきていただいたり、レクで作ったものを飾る等工夫している。また、ベッドだけでなく、安全面や希望を考慮して、畳に布団を敷いたり、本人が安心して快適に生活して頂けるように工夫している。	
			(外部評価) お孫さんの写真やテレビ、ご自宅で使っていた椅子を持ち込んでおられる。室内のエアコンでの乾燥を防ぐために、ハンガーに濡れタオルを掛けたり、水を入れたバケツやコップが置かれていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 共用部分はわかりやすいよう、大きな文字で飾り、利用者に見えやすい高さに表示している。床・居室は段差のない作りになっている。通り道には物を置かないなど、配慮している。	
			(外部評価)	